

食育推進における栄養教諭の職務に関する実態調査

Survey on the Status and Professional Duties of Nutrition Teachers in Promoting Food and Nutrition Education

バード 理 衣* 岸 田 恵 津**
BAIRD Rie KISHIDA Etsu

学校の食育推進のPDCAにおける栄養教諭の職務について、重要性の意識や実践の状況、課題を把握することを目的として調査を行った。2020年7～10月、愛媛県と兵庫県の栄養教諭・学校栄養職員436人を対象に質問紙調査を実施し、185人（回収率42.4%）が回答した。栄養教諭の職務を食育推進のPDCA「計画（P）」「実践（D）」「評価（C）」「改善（A）」で整理して質問項目を設定し、重要性の意識等を調べた。その結果、PDCAいずれの項目でも重要性の意識は高かったが、実践の状況では「改善」の項目が低かった。また、「実態を把握した全体計画作成」「食育推進の評価」に課題が見られた。これらのことから、「食育推進の評価」といった実践されていない改善（A）段階に課題があると同時に、目標や評価指標の設定を行う「全体計画の作成」といった計画（P）段階にも課題があると考えられる。したがって、計画段階の課題を改善することで、PDCAサイクルに基づく、よりよい食育の推進につながる可能性が示唆された。

キーワード：学校，食育，PDCA，栄養教諭

Key words : school, food and nutrition education, PDCA approach, nutrition teacher

I 緒言

栄養教諭は、学校における食に関する指導の体制整備の一環として2005年度に制度化された。職務は「児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことである（学校教育法第37条第13項等）。教育に関する資質と栄養に関する専門性を生かして、食に関する指導と学校給食の管理を一体として行い、学校の食育推進における連携・調整の役割が求められている。

文部科学省は、栄養教諭が配置されている学校では、その効果として食に関する指導は充実してきたとみる一方、食育について学校の教育活動全体で組織的に取り組むという点では、課題があるとしている¹⁾。その改善のためには、栄養教諭の専門性を最大限に生かすこと、栄養教諭自身が食育推進における役割を自覚することであるとしている。これを受けて、学校の食育推進について、「計画（P）」「実践（D）」「評価（C）」「改善（A）」のPDCAサイクルに基づいて行うことや、そのための栄養教諭の一連の業務が明確に示されるようになった²⁾。また、「食に関する指導の手引—第二次改訂版—」では、食に関する指導に係る全体計画の作成、食に関する指導の内容と栄養教諭の役割、及び食育推進に対する評価に関する内容の充実が図られている³⁾。これらのことから、学校における食育をより推進する上で、栄養教諭の職務や役割を食育推進のPDCAに沿って現状と課題を把握する必要があると考え、本調査研究を企図した。

栄養教諭の職務に関する先行研究の内容は、食に関する指導のコーディネーター的役割として家庭科などの

教科担当教員との連携に関するものがある。その報告では、他の教員との関わりが多い栄養教諭ほど、職務に対して肯定的な認識を持っていることや⁴⁾、栄養教諭の食育実践のしやすさの要因には、教員からの依頼や受け入れに対する理解など職場の人間関係に左右される実態があり、子どもたちの学習機会の質の均等の面で課題があることが指摘されている⁵⁾。また、兵庫県では、任用1年後の栄養教諭を対象に職務の現状と課題を調査した報告がある。その報告では、教職員間の共通理解が得られるような環境面での整備や、栄養教諭の授業等へ参画のために、指導内容・方法に関する研修の充実が課題として指摘されている⁶⁾。しかし、これらの調査は、栄養教諭制度創設初期に実施されたものであり、その内容は、学校における食育推進のPDCAすべての段階を網羅したものではない。

そこで本研究では、学校における食育を推進し、より充実したものとするを旨として、推進の中核を担う栄養教諭の職務の状況や課題について食育推進のPDCAサイクルに沿って明らかにすることを目的とした。具体的には、栄養教諭の職務の重要性に対する意識（以後「重要性の意識」とする）と実践の状況および、課題についてたずね、得られた結果より、一層の食育推進に向けて、栄養教諭の専門性をどのように生かすのが望ましいのかの示唆を得ようとした。

II 研究方法

1 調査の手順と対象者

2020年7月から10月に、愛媛県と兵庫県の（公社）

* 兵庫教育大学大学院（修士課程）人間発達教育専攻生活・健康・情報系教育コース

令和3年7月16日受理

** 兵庫教育大学大学院（修士課程）人間発達教育専攻生活・健康・情報系教育コース 教授

全国学校栄養士協議会会員 436 人（愛媛県 131 人、兵庫県 305 人）に、無記名での質問紙調査を実施した。愛媛県 131 人には、7 月に質問紙を郵送にて送付し、兵庫県 305 人には、9 月に役員 10 名を通じて全会員に電子メールで質問紙を送付した。いずれも、Microsoft forms にて回答を入力してもらった。倫理的配慮として、質問紙調査票において、回答は全体として集計、分析し、個人が特定されないこと、研究結果を公表する場合にも、十分に配慮することを示し、回答時に同意を得た。愛媛県は 79 人（回収率 60.3%）から、兵庫県は 106 人（回収率 34.8%）から回答が得られ、全体の回収率は 42.4% であった。すべて有効とし、欠損は項目ごとに除外した。

2 調査項目・内容

属性と食育推進における栄養教諭の職務に関する項目をたずねた。属性は、性別、年齢（年代）、現在の雇用職種、学校での栄養士としての経験年数、所属の学校種、担当の調理場形態とした。

食育推進における栄養教諭の職務に関する項目では、重要性に対する意識（以下、重要性の意識）、実践の状況及び課題についてたずねた。調査項目の設定にあたっては、小林らの調査⁴⁾を参考に、食育推進の PDCA の各段階が含まれるように項目を加減し、計画 4 項目、実践 7 項目、評価 3 項目、改善 2 項目の合計 16 項目を選んだ。それぞれ同じ項目について重要性の意識と実践の状況についてたずね、4 件法で回答を求めた。

重要性の意識については「学校の食育推進において、ご自身の役割（職務）としてどの程度重要であると思いますか」と質問し、16 項目に対して「とても重要である」「重要である」「あまり重要でない」「重要でない」の選択肢から回答を求めた。

実践の状況については「学校の食育推進のために、あなたはどの程度実践していると感じていますか」と質問し、「十分に実践している」「おおむね実践している」「あまり実践していない」「実践していない」の選択肢から回答を求めた。また、「食に関する指導の全体計画策定に参画する」に対する実践の状況で「十分に実践している」「おおむね実践している」「あまり実践していない」と回答した人に対し、その内容を「実態把握」「目標設定」「評価指標の設定」「全体計画原案作成」「その他」の中から複数回答可で選択してもらった。

課題については、重要性の意識及び実践の状況で質問した項目に対して考えられる課題を 14 項目示して、「学校の食育推進における課題をどのように感じていますか」と問い、「大いに課題である」「課題である」「あまり課題でない」「課題でない」の選択肢から回答を求めた。また、自由記述を設定した。

3 分析方法

データ分析には、統計ソフト IBM SPSS Statistics26（日本アイ・ビー・エム株式会社）を使用した。各質問項目の回答を集計し、質問項目間の関連性はカイ二乗検定及び Fisher の正確確率検定で行い、有意水準を 5%（両側検定）とした。

III 結果

1 全体の結果

(1) 対象者の属性

対象者の属性を表 1 に示した。女性が 175 人（94.6%）、年代は 39 歳以下が 115 人（62.2%）であった。職名は栄養教諭が期限付きの臨時栄養教諭を含めて 164 人（88.7%）であった。学校栄養職員等、栄養教諭以外の

表 1 対象者の属性

項目	全体 n=185	所属校種			調理形態			経験年数		
		小学校 n=128	中学校 n=43	p 値 [†]	単独調理場 n=88	共同調理場 n=92	p 値 [†]	～10年 n=97	11年～ n=88	p 値 [†]
性別										
男	10 (5.4)	8 (6.3)	2 (4.7)	1.00	4 (4.5)	6 (6.5)	0.75	5 (5.2)	5 (5.7)	1.00
女	175 (94.6)	120 (93.8)	41 (95.3)		84 (95.5)	86 (93.5)		92 (94.8)	83 (94.3)	
年齢										
～29歳	61 (33.0)	41 (32.0)	18 (41.9)	0.18	33 (37.5)	28 (30.4)	0.094	61 (62.9)	0 (0.0)	<0.001
30～39歳	54 (29.2)	39 (30.5)	6 (14.0)		29 (33.0)	23 (25.0)		30 (30.9)	24 (27.3)	
40～49歳	31 (16.8)	21 (16.4)	7 (16.3)		8 (9.1)	20 (21.7)		5 (5.2)	26 (29.5)	
50歳～	39 (21.1)	27 (21.1)	12 (27.9)		18 (20.5)	21 (22.8)		1 (1.0)	38 (43.2)	
職名										
栄養教諭	132 (71.4)	93 (72.7)	32 (74.4)	0.63	65 (73.9)	66 (71.7)	0.52	52 (53.6)	80 (90.9)	<0.001
学校栄養職員	11 (5.9)	7 (5.5)	4 (9.3)		3 (3.4)	8 (8.7)		6 (6.2)	5 (5.7)	
栄養教諭(期限付採用)	32 (17.3)	24 (18.8)	7 (16.3)		17 (19.3)	15 (16.3)		30 (30.9)	2 (2.3)	
その他	10 (5.4)	4 (3.1)	0 (0.0)		3 (3.4)	3 (3.3)		9 (9.3)	1 (1.1)	
経験年数										
～5年	63 (34.1)	42 (32.8)	16 (37.2)	0.50	33 (37.5)	27 (29.3)	0.064			
6～10年	34 (18.4)	24 (18.8)	4 (9.3)		22 (25.0)	12 (13.0)				
11～15年	23 (12.4)	18 (14.1)	4 (9.3)		10 (11.4)	13 (14.1)				
16～20年	14 (7.6)	10 (7.8)	4 (9.3)		4 (4.5)	10 (10.9)				
21年～	51 (27.6)	34 (26.6)	15 (34.9)		19 (21.6)	30 (32.6)				
調理形態										
単独調理場	88 (47.6)	68 (53.1)	12 (27.9)	0.003				55 (56.7)	33 (37.5)	0.018
共同調理場	92 (49.7)	60 (46.9)	30 (69.8)					39 (40.2)	53 (60.2)	
担当調理場なし	5 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.3)					3 (3.1)	2 (2.3)	
所属校種										
小学校	128 (69.2)				68 (77.3)	60 (65.2)	0.001	66 (68.0)	62 (70.5)	0.23
中学校	43 (23.2)				12 (13.6)	30 (32.6)		20 (20.6)	23 (26.1)	
特別支援学校	9 (4.9)				8 (9.1)	1 (1.1)		7 (7.2)	2 (2.3)	
その他	5 (2.7)				0 (0.0)	1 (1.1)		4 (4.1)	1 (1.1)	

人 (%)

[†]: カイ二乗検定 (Fisher の正確確率検定)

職種も含まれるが、本研究ではすべてを合わせて「栄養教諭」と扱うこととした。所属の学校種については、小学校が128人(69.2%)で、調理形態については、学校の給食室で給食を作る単独調理場に勤務する者が88人(47.6%)であった。所属の学校種と調理形態には関連があり(p=0.003)、小学校に所属する者の53.1%が単

独調理場に勤務しており、中学校に所属する者の69.8%が共同調理場に勤務していた。経験年数と職名では、経験年数10年未満の者は97人(52.5%)であり、その中には期限付き採用の栄養教諭が30.9%含まれていた。

(2) 食育推進における栄養教諭の職務に関する重要性の意識(表2)

表2 食育推進における職務に関する重要性の意識に対する栄養教諭の所属校種・調理形態及び経験年数の比較

項目	全体 n=185	所属校種		p値†	調理形態		p値†	経験年数		p値†
		小学校 n=128	中学校 n=43		単独調理場 n=88	共同調理場 n=92		~10年 n=97	11年~ n=88	
食に関する指導の全体計画策定に参画する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.84	0 (0.0)	0 (0.0)	0.20	0 (0.0)	0 (0.0)	0.31
あまり重要でない	3 (1.6)	2 (1.6)	0 (0.0)		2 (2.3)	0 (0.0)		1 (1.0)	2 (2.3)	
重要である	65 (35.1)	42 (32.8)	16 (37.2)		27 (30.7)	36 (39.1)		39 (40.2)	26 (29.5)	
とても重要である	117 (63.2)	84 (65.6)	27 (62.8)		59 (67.0)	56 (60.9)		57 (58.8)	60 (68.2)	
給食を関連付けた食に関する指導の計画を作成する										
重要でない	1 (0.5)	1 (0.8)	0 (0.0)	0.65	1 (1.1)	0 (0.0)	0.54	1 (1.0)	0 (0.0)	0.47
あまり重要でない	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)		0 (0.0)	0 (0.0)		1 (1.0)	0 (0.0)	
重要である	45 (24.3)	28 (21.9)	12 (27.9)		19 (21.6)	24 (26.1)		26 (26.8)	19 (21.6)	
とても重要である	138 (74.6)	99 (77.3)	31 (72.1)		68 (77.3)	68 (73.9)		69 (71.1)	69 (78.4)	
家庭と連携した取組を推進するための企画・提案をする										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.88	0 (0.0)	0 (0.0)	0.86	0 (0.0)	0 (0.0)	0.24
あまり重要でない	3 (1.6)	3 (2.3)	0 (0.0)		1 (1.1)	2 (2.2)		0 (0.0)	3 (3.4)	
重要である	83 (44.9)	55 (43.0)	19 (44.2)		38 (43.2)	42 (45.7)		45 (46.4)	38 (43.2)	
とても重要である	99 (53.5)	70 (54.7)	24 (55.8)		49 (55.7)	48 (52.2)		52 (53.6)	47 (53.4)	
地域の食育に関する取組の情報を収集する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.69	0 (0.0)	0 (0.0)	0.49	0 (0.0)	0 (0.0)	0.35
あまり重要でない	7 (3.8)	5 (3.9)	1 (2.3)		5 (5.7)	2 (2.2)		2 (2.1)	5 (5.7)	
重要である	100 (54.1)	71 (55.5)	21 (48.8)		46 (52.3)	51 (55.4)		51 (52.6)	49 (55.7)	
とても重要である	78 (42.2)	52 (40.6)	21 (48.8)		37 (42.0)	39 (42.4)		44 (45.4)	34 (38.6)	
給食の時間において、食に関する指導を行う										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.87	0 (0.0)	0 (0.0)	0.93	0 (0.0)	0 (0.0)	0.93
あまり重要でない	2 (1.1)	1 (0.8)	0 (0.0)		0 (0.0)	1 (1.1)		1 (1.0)	1 (1.1)	
重要である	43 (23.2)	27 (21.1)	10 (23.3)		21 (23.9)	20 (21.7)		22 (22.7)	21 (23.9)	
とても重要である	140 (75.7)	100 (78.1)	33 (76.7)		67 (76.1)	71 (77.2)		74 (76.3)	66 (75.0)	
食に関する指導について教材研究をする(教員との打ち合わせ・資料作成等)										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1.00	0 (0.0)	0 (0.0)	0.25	0 (0.0)	0 (0.0)	1.00
あまり重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)		0 (0.0)	0 (0.0)		0 (0.0)	0 (0.0)	
重要である	54 (29.2)	35 (27.3)	11 (25.6)		21 (23.9)	30 (32.6)		28 (28.9)	26 (29.5)	
とても重要である	131 (70.8)	93 (72.7)	32 (74.4)		67 (76.1)	62 (67.4)		69 (71.1)	62 (70.5)	
学級活動、教科等において、食に関する指導を行う										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.68	0 (0.0)	0 (0.0)	0.43	0 (0.0)	0 (0.0)	0.96
あまり重要でない	6 (3.2)	4 (3.1)	0 (0.0)		4 (4.5)	1 (1.1)		3 (3.1)	3 (3.4)	
重要である	74 (40.0)	49 (38.3)	16 (37.2)		35 (39.8)	37 (40.2)		38 (39.2)	36 (40.9)	
とても重要である	105 (56.8)	75 (58.6)	27 (62.8)		49 (55.7)	54 (58.7)		56 (57.7)	49 (55.7)	
指導後の児童生徒の食に関する意識や行動の変容状況を把握する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.45	0 (0.0)	0 (0.0)	0.75	0 (0.0)	0 (0.0)	0.22
あまり重要でない	1 (0.5)	1 (0.8)	0 (0.0)		1 (1.1)	0 (0.0)		1 (1.0)	0 (0.0)	
重要である	64 (34.6)	45 (35.2)	11 (25.6)		29 (33.0)	32 (34.8)		29 (29.9)	35 (39.8)	
とても重要である	120 (64.9)	82 (64.1)	32 (74.4)		58 (65.9)	60 (65.2)		67 (69.1)	53 (60.2)	
児童生徒への個別相談指導を実施する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.75	0 (0.0)	0 (0.0)	0.69	0 (0.0)	0 (0.0)	0.76
あまり重要でない	11 (5.9)	8 (6.3)	3 (7.0)		4 (4.5)	7 (7.6)		5 (5.2)	6 (6.8)	
重要である	98 (53.0)	68 (53.1)	20 (46.5)		47 (53.4)	48 (52.2)		50 (51.5)	48 (54.5)	
とても重要である	76 (41.1)	52 (40.6)	20 (46.5)		37 (42.0)	37 (40.2)		42 (43.3)	34 (38.6)	
保護者に対する個別相談を実施する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.47	0 (0.0)	0 (0.0)	0.74	0 (0.0)	0 (0.0)	0.90
あまり重要でない	17 (9.2)	12 (9.4)	4 (9.3)		7 (8.0)	10 (10.9)		5 (5.2)	6 (6.8)	
重要である	110 (59.5)	78 (60.9)	22 (51.2)		52 (59.1)	55 (59.8)		59 (60.8)	51 (58.0)	
とても重要である	58 (31.4)	38 (29.7)	17 (39.5)		29 (33.0)	27 (29.3)		29 (29.9)	29 (33.0)	
食事摂取基準等に配慮した給食献立の作成をする										
重要でない	2 (1.1)	1 (0.8)	1 (2.3)	0.56	1 (1.1)	1 (1.1)	0.94	1 (1.0)	1 (1.1)	0.97
あまり重要でない	2 (1.1)	2 (1.6)	0 (0.0)		1 (1.1)	1 (1.1)		1 (1.0)	1 (1.1)	
重要である	87 (47.0)	62 (48.4)	18 (41.9)		43 (48.9)	42 (45.7)		45 (46.4)	42 (47.7)	
とても重要である	94 (50.8)	63 (49.2)	24 (55.8)		43 (48.9)	48 (52.2)		50 (51.5)	44 (50.0)	
児童生徒の食習慣の状況を把握する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.032	0 (0.0)	0 (0.0)	0.88	0 (0.0)	0 (0.0)	0.46
あまり重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)		0 (0.0)	0 (0.0)		0 (0.0)	0 (0.0)	
重要である	82 (44.3)	61 (47.7)	12 (27.9)		40 (45.5)	40 (43.5)		40 (41.2)	42 (47.7)	
とても重要である	103 (55.7)	67 (52.3)	31 (72.1)		48 (54.5)	52 (56.5)		57 (58.8)	46 (52.3)	
食に関する指導の実施状況を把握する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.39	0 (0.0)	0 (0.0)	0.82	0 (0.0)	0 (0.0)	0.60
あまり重要でない	7 (3.8)	4 (3.1)	1 (2.3)		2 (2.3)	4 (4.3)		3 (3.1)	4 (4.5)	
重要である	106 (57.3)	76 (59.4)	21 (48.8)		51 (58.0)	52 (56.5)		53 (54.6)	53 (60.2)	
とても重要である	72 (38.9)	48 (37.5)	21 (48.8)		35 (39.8)	36 (39.1)		41 (42.3)	31 (35.2)	
児童生徒の肥満・瘦身、健康状態等を把握する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.88	0 (0.0)	0 (0.0)	0.87	0 (0.0)	0 (0.0)	0.83
あまり重要でない	4 (2.2)	3 (2.3)	0 (0.0)		2 (2.3)	2 (2.2)		2 (2.1)	2 (2.3)	
重要である	96 (51.9)	67 (52.3)	23 (53.5)		44 (50.0)	50 (54.3)		48 (49.5)	48 (54.5)	
とても重要である	85 (45.9)	58 (45.3)	20 (46.5)		42 (47.7)	40 (43.5)		47 (48.5)	38 (43.2)	
学校の食育推進の評価に基づいて考察を行う										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.28	0 (0.0)	0 (0.0)	0.91	0 (0.0)	0 (0.0)	0.38
あまり重要でない	5 (2.7)	4 (3.1)	0 (0.0)		2 (2.3)	2 (2.2)		1 (1.0)	4 (4.5)	
重要である	103 (55.7)	73 (57.0)	21 (48.8)		48 (54.5)	53 (57.6)		54 (55.7)	49 (55.7)	
とても重要である	77 (41.6)	51 (39.8)	22 (51.2)		38 (43.2)	37 (40.2)		42 (43.3)	35 (39.8)	
評価結果に基づいて指導計画の改善を検討する										
重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.80	0 (0.0)	0 (0.0)	0.82	0 (0.0)	0 (0.0)	0.78
あまり重要でない	2 (1.1)	1 (0.8)	0 (0.0)		1 (1.1)	0 (0.0)		1 (1.0)	1 (1.1)	
重要である	100 (54.1)	69 (53.9)	22 (51.2)		47 (53.4)	51 (55.4)		50 (51.5)	50 (56.8)	
とても重要である	83 (44.9)	58 (45.3)	21 (48.8)		40 (45.5)	41 (44.6)		46 (47.4)	37 (42.0)	

人(%)
†:カイ二乗検定(Fisherの正確確率検定)

重要性の意識では、いずれの項目も90%以上が「とても重要である」「重要である」と回答した。中でも、「食に関する指導について教材研究をする」と「児童生徒の食習慣の状況を把握する」については、全員が「とても重要である」「重要である」と回答した。

(3) 食育推進における栄養教諭の職務に対する実践の状況 (表3)

実践の状況では、「十分実践している」「おおむね実践している」と回答した割合は、「食事摂取基準等に配慮した給食献立の作成をする」が93.0%、「給食の時間において、食に関する指導を行う」が82.1%、「給食を関

表3 食育推進における職務に関する実践の状況に対する栄養教諭の所属校種・調理形態及び経験年数の比較

項目	全体 n=185	所属校種			調理形態				経験年数		
		小学校 n=128	中学校 n=43	p値†	単独調理場 n=88	共同調理場 n=92	p値†	~10年 n=97	11年~ n=88	p値†	
食に関する指導の全体計画策定に参画する	実践していない	10 (5.4)	5 (3.9)	1 (2.3)	0.82	2 (2.3)	5 (5.4)	0.11	7 (7.2)	3 (3.4)	0.11
	あまり実践していない	35 (18.9)	25 (19.5)	9 (20.9)		12 (13.6)	23 (25.0)		23 (23.7)	12 (13.6)	
	おおむね実践している	92 (49.7)	63 (49.2)	24 (55.8)		47 (53.4)	45 (48.9)		47 (48.5)	45 (51.1)	
	十分に実践している	48 (25.9)	35 (27.3)	9 (20.9)		27 (30.7)	19 (20.7)		20 (20.6)	28 (31.8)	
給食を関連付けた食に関する指導の計画を作成する	実践していない	8 (4.3)	4 (3.1)	1 (2.3)	0.97	1 (1.1)	4 (4.3)	0.25	5 (5.2)	3 (3.4)	0.002
	あまり実践していない	29 (15.7)	19 (14.8)	6 (14.0)		13 (14.8)	16 (17.4)		24 (24.7)	5 (5.7)	
	おおむね実践している	122 (65.9)	86 (67.2)	31 (72.1)		58 (65.9)	63 (68.5)		58 (59.8)	64 (72.7)	
	十分に実践している	26 (14.1)	19 (14.8)	5 (11.6)		16 (18.2)	9 (9.8)		10 (10.3)	16 (18.2)	
家庭と連携した取組を推進するための企画・提案をする	実践していない	8 (4.3)	3 (2.3)	3 (7.0)	0.018	0 (0.0)	7 (7.6)	0.020	6 (6.2)	2 (2.3)	0.22
	あまり実践していない	94 (50.8)	72 (56.3)	15 (34.9)		45 (51.1)	47 (51.1)		53 (54.6)	41 (46.6)	
	おおむね実践している	76 (41.1)	50 (39.1)	21 (48.8)		41 (46.6)	33 (35.9)		36 (37.1)	40 (45.5)	
	十分に実践している	7 (3.8)	3 (2.3)	4 (9.3)		2 (2.3)	5 (5.4)		2 (2.1)	5 (5.7)	
地域の食育に関する取組の情報を収集する	実践していない	14 (7.6)	10 (7.8)	1 (2.3)	0.16	6 (6.8)	7 (7.6)	0.28	8 (8.2)	6 (6.8)	0.67
	あまり実践していない	89 (48.1)	65 (50.8)	16 (37.2)		49 (55.7)	38 (41.3)		46 (47.4)	43 (48.9)	
	おおむね実践している	72 (38.9)	46 (35.9)	23 (53.5)		29 (33.0)	41 (44.6)		36 (37.1)	36 (40.9)	
	十分に実践している	10 (5.4)	7 (5.5)	3 (7.0)		4 (4.5)	6 (6.5)		7 (7.2)	3 (3.4)	
給食の時間において、食に関する指導を行う	実践していない	6 (3.2)	3 (2.3)	0 (0.0)	0.29	2 (2.3)	1 (1.1)	0.45	6 (6.2)	0 (0.0)	0.096
	あまり実践していない	27 (14.6)	15 (11.7)	10 (23.3)		10 (11.4)	17 (18.5)		15 (15.5)	12 (13.6)	
	おおむね実践している	117 (63.2)	85 (66.4)	26 (60.5)		61 (69.3)	55 (59.8)		60 (61.9)	57 (64.8)	
	十分に実践している	35 (18.9)	25 (19.5)	7 (16.3)		15 (17.0)	19 (20.7)		16 (16.5)	19 (21.6)	
食に関する指導について教材研究をする(教員との打ち合わせ・資料作成等)	実践していない	7 (3.8)	2 (1.6)	2 (4.7)	0.28	3 (3.4)	2 (2.2)	0.070	7 (7.2)	0 (0.0)	0.047
	あまり実践していない	41 (22.2)	28 (21.9)	8 (18.6)		27 (30.7)	14 (15.2)		23 (23.7)	18 (20.5)	
	おおむね実践している	110 (59.5)	82 (64.1)	24 (55.8)		46 (52.3)	62 (67.4)		55 (56.7)	55 (62.5)	
	十分に実践している	27 (14.6)	16 (12.5)	9 (20.9)		12 (13.6)	14 (15.2)		12 (12.4)	15 (17.0)	
学級活動、教科等において、食に関する指導を行う	実践していない	15 (8.1)	8 (6.3)	3 (7.0)	0.48	8 (9.1)	4 (4.3)	0.35	14 (14.4)	1 (1.1)	0.003
	あまり実践していない	53 (28.6)	34 (26.6)	14 (32.6)		28 (31.8)	25 (27.2)		30 (30.9)	23 (26.1)	
	おおむね実践している	99 (53.5)	75 (58.6)	20 (46.5)		46 (52.3)	52 (56.5)		47 (48.5)	52 (59.1)	
	十分に実践している	18 (9.7)	11 (8.6)	6 (14.0)		6 (6.8)	11 (12.0)		6 (6.2)	12 (13.6)	
指導後の児童生徒の食に関する意識や行動の変容状況を把握する	実践していない	11 (5.9)	7 (5.5)	1 (2.3)	0.003	5 (5.7)	4 (4.3)	0.59	7 (7.2)	4 (4.5)	0.74
	あまり実践していない	73 (39.5)	59 (46.1)	8 (18.6)		39 (44.3)	33 (35.9)		38 (39.2)	35 (39.8)	
	おおむね実践している	97 (52.4)	59 (46.1)	33 (76.7)		42 (47.7)	53 (57.6)		49 (50.5)	48 (54.5)	
	十分に実践している	4 (2.2)	3 (2.3)	1 (2.3)		2 (2.3)	2 (2.2)		3 (3.1)	1 (1.1)	
児童生徒への個別相談指導を実施する	実践していない	35 (18.9)	26 (20.3)	6 (14.0)	0.13	16 (18.2)	18 (19.6)	0.51	23 (23.7)	12 (13.6)	0.26
	あまり実践していない	64 (34.6)	45 (35.2)	12 (27.9)		35 (39.8)	27 (29.3)		34 (35.1)	30 (34.1)	
	おおむね実践している	69 (37.3)	48 (37.5)	17 (39.5)		30 (34.1)	37 (40.2)		31 (32.0)	38 (43.2)	
	十分に実践している	17 (9.2)	9 (7.0)	8 (18.6)		7 (8.0)	10 (10.9)		9 (9.3)	8 (9.1)	
保護者に対する個別相談を実施する	実践していない	36 (19.5)	23 (18.0)	8 (18.6)	0.75	12 (13.6)	22 (23.9)	0.33	26 (26.8)	10 (11.4)	0.015
	あまり実践していない	69 (37.3)	51 (39.8)	14 (32.6)		37 (42.0)	31 (33.7)		38 (39.2)	31 (35.2)	
	おおむね実践している	72 (38.9)	49 (38.3)	18 (41.9)		35 (39.8)	35 (38.0)		29 (29.9)	43 (48.9)	
	十分に実践している	8 (4.3)	5 (3.9)	3 (7.0)		4 (4.5)	4 (4.3)		4 (4.1)	4 (4.5)	
食事摂取基準等に配慮した給食献立の作成をする	実践していない	6 (3.2)	4 (3.1)	1 (2.3)	0.28	4 (4.5)	1 (1.1)	0.23	5 (5.2)	1 (1.1)	0.39
	あまり実践していない	7 (3.8)	3 (2.3)	2 (4.7)		1 (1.1)	5 (5.4)		3 (3.1)	4 (4.5)	
	おおむね実践している	137 (74.1)	91 (71.1)	35 (81.4)		67 (76.1)	67 (72.8)		73 (75.3)	64 (72.7)	
	十分に実践している	35 (18.9)	30 (23.4)	5 (11.6)		16 (18.2)	19 (20.7)		16 (16.5)	19 (21.6)	
児童生徒の食習慣の状況を把握する	実践していない	7 (3.8)	5 (3.9)	0 (0.0)	0.008	3 (3.4)	3 (3.3)	0.24	6 (6.2)	1 (1.1)	0.25
	あまり実践していない	62 (33.5)	51 (39.8)	7 (16.3)		36 (40.9)	25 (27.2)		35 (36.1)	27 (30.7)	
	おおむね実践している	108 (58.4)	67 (52.3)	33 (76.7)		45 (51.1)	60 (65.2)		52 (53.6)	56 (63.6)	
	十分に実践している	8 (4.3)	5 (3.9)	3 (7.0)		4 (4.5)	4 (4.3)		4 (4.1)	4 (4.5)	
食に関する指導の実施状況を把握する	実践していない	8 (4.3)	5 (3.9)	0 (0.0)	0.73	2 (2.3)	4 (4.3)	0.87	7 (7.2)	1 (1.1)	0.15
	あまり実践していない	56 (30.3)	36 (28.1)	14 (32.6)		27 (30.7)	28 (30.4)		30 (30.9)	26 (29.5)	
	おおむね実践している	105 (56.8)	75 (58.6)	25 (58.1)		52 (59.1)	51 (55.4)		54 (55.7)	51 (58.0)	
	十分に実践している	16 (8.6)	12 (9.4)	4 (9.3)		7 (8.0)	9 (9.8)		6 (6.2)	10 (11.4)	
児童生徒の肥満・痩身、健康状態等を把握する	実践していない	9 (4.9)	6 (4.7)	1 (2.3)	0.31	1 (1.1)	7 (7.6)	0.16	7 (7.2)	2 (2.3)	0.19
	あまり実践していない	40 (21.6)	32 (25.0)	6 (14.0)		22 (25.0)	17 (18.5)		22 (22.7)	18 (20.5)	
	おおむね実践している	109 (58.9)	73 (57.0)	27 (62.8)		53 (60.2)	54 (58.7)		58 (59.8)	51 (58.0)	
	十分に実践している	27 (14.6)	17 (13.3)	9 (20.9)		12 (13.6)	14 (15.2)		10 (10.3)	17 (19.3)	
学校の食育推進の評価に基づいて考察を行う	実践していない	15 (8.1)	11 (8.6)	0 (0.0)	0.11	2 (2.3)	10 (10.9)	0.057	8 (8.2)	7 (8.0)	0.98
	あまり実践していない	95 (51.4)	69 (53.9)	21 (48.8)		51 (58.0)	44 (47.8)		50 (51.5)	45 (51.1)	
	おおむね実践している	70 (37.8)	45 (35.2)	21 (48.8)		32 (36.4)	37 (40.2)		37 (38.1)	33 (37.5)	
	十分に実践している	5 (2.7)	3 (2.3)	1 (2.3)		3 (3.4)	1 (1.1)		2 (2.1)	3 (3.4)	
評価結果に基づいて指導計画の改善を検討する	実践していない	18 (9.7)	13 (10.2)	1 (2.3)	0.40	5 (5.7)	10 (10.9)	0.59	11 (11.3)	7 (8.0)	0.79
	あまり実践していない	97 (52.4)	68 (53.1)	24 (55.8)		47 (53.4)	50 (54.3)		48 (49.5)	49 (55.7)	
	おおむね実践している	64 (34.6)	42 (32.8)	17 (39.5)		33 (37.5)	29 (31.5)		35 (36.1)	29 (33.0)	
	十分に実践している	6 (3.2)	5 (3.9)	1 (2.3)		3 (3.4)	3 (3.3)		3 (3.1)	3 (3.4)	

人(%)
†:カイ二乗検定(Fisherの正確確率検定)

連付けた食に関する指導の計画を作成する」が80.0%と高く、続いて「食に関する指導の全体計画策定に参画する」が75.6%であった。一方で、回答した割合が低かったのは、「評価結果に基づいて指導計画の改善を検討する」が37.8%、「学校の食育推進の評価に基づいて考察を行う」が40.5%であった。

また、「食に関する指導の全体計画策定に参画する」で「実践していない」と回答した人を除く全員（175人）に実践内容をたずねると174人から回答が得られた。その内容は、「実態把握」が127人（73.0%）、「目標設定」が132人（75.9%）、「評価指標の設定」が61人（35.1%）であった。

(4) 食育推進における栄養教諭の職務の課題（表4）

課題に関する質問に対して、5項目で90%以上が「課題である」「大いに課題である」と回答した。内訳は、「児童生徒の実態を把握した食に関する指導の全体計画を作成すること」が90.2%、「家庭と連携して食育の取組を行うこと」が92.4%、「指導後の児童生徒の変容を把握すること」が91.4%、「食育推進の評価に関すること」が94.6%、「教職員が食育の必要性を理解すること」が93.0%であった。

2 勤務環境の違いによる比較（表2、表3、表4）

所属校種及び調理形態別でそれぞれ、食育推進における栄養教諭の職務に対する重要性の意識、実践の状況及

表4 食育推進における職務の課題に対する栄養教諭の所属校種・調理形態及び経験年数の比較

項目	全体 n=185	所属校種		p値 [†]	調理形態		p値 [†]	経験年数		p値 [†]
		小学校 n=128	中学校 n=43		単独調理場 n=88	共同調理場 n=92		～10年 n=97	11年～ n=88	
児童生徒の実態を把握した食に関する指導の全体計画を作成すること										
課題でない	1 (0.5)	1 (0.8)	0 (0.0)	0.55	1 (1.1)	0 (0.0)	0.27	0 (0.0)	1 (1.1)	0.51
あまり課題でない	17 (9.2)	10 (7.8)	5 (11.6)		6 (6.8)	10 (10.9)		7 (7.2)	10 (11.4)	
課題である	127 (68.6)	90 (70.3)	26 (60.5)		58 (65.9)	66 (71.7)		67 (69.1)	60 (68.2)	
大いに課題である	40 (21.6)	27 (21.1)	12 (27.9)		23 (26.1)	16 (17.4)		23 (23.7)	17 (19.3)	
給食を関連付けた食に関する指導の計画を作成すること										
課題でない	2 (1.1)	2 (1.6)	0 (0.0)	0.22	2 (2.3)	0 (0.0)	0.67	1 (1.0)	1 (1.1)	0.99
あまり課題でない	43 (23.2)	28 (21.9)	11 (25.6)		20 (22.7)	22 (23.9)		22 (22.7)	21 (23.9)	
課題である	108 (58.4)	78 (60.9)	20 (46.5)		50 (56.8)	55 (59.8)		57 (58.8)	51 (58.0)	
大いに課題である	32 (17.3)	20 (15.6)	12 (27.9)		16 (18.2)	15 (16.3)		17 (17.5)	15 (17.0)	
学年段階別に食に関する指導を行うこと										
課題でない	3 (1.6)	1 (0.8)	2 (4.7)	0.22	1 (1.1)	2 (2.2)	0.79	1 (1.0)	2 (2.3)	0.80
あまり課題でない	32 (17.3)	24 (18.8)	5 (11.6)		15 (17.0)	16 (17.4)		17 (17.5)	15 (17.0)	
課題である	112 (60.5)	78 (60.9)	25 (58.1)		52 (59.1)	58 (63.0)		57 (58.8)	55 (62.5)	
大いに課題である	38 (20.5)	25 (19.5)	11 (25.6)		20 (22.7)	16 (17.4)		22 (22.7)	16 (18.2)	
給食時間における食に関する指導を計画的に行うこと										
課題でない	2 (1.1)	2 (1.6)	0 (0.0)	0.21	2 (2.3)	0 (0.0)	0.32	1 (1.0)	1 (1.1)	0.81
あまり課題でない	38 (20.5)	30 (23.4)	5 (11.6)		16 (18.2)	21 (22.8)		22 (22.7)	16 (18.2)	
課題である	111 (60.0)	74 (57.8)	26 (60.5)		51 (58.0)	57 (62.0)		55 (56.7)	56 (63.6)	
大いに課題である	34 (18.4)	22 (17.2)	12 (27.9)		19 (21.6)	14 (15.2)		19 (19.6)	15 (17.0)	
児童生徒の学級活動・教科等における食に関する学習の時間を確保すること										
課題でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.24	0 (0.0)	0 (0.0)	0.29	0 (0.0)	0 (0.0)	0.85
あまり課題でない	23 (12.4)	15 (11.7)	7 (16.3)		8 (9.1)	15 (16.3)		11 (11.3)	12 (13.6)	
課題である	99 (53.5)	69 (53.9)	17 (39.5)		47 (53.4)	48 (52.2)		52 (53.6)	47 (53.4)	
大いに課題である	62 (33.5)	43 (33.6)	19 (44.2)		33 (37.5)	28 (30.4)		34 (35.1)	28 (31.8)	
栄養教諭(学校栄養職員)の食に関する指導の時間を確保すること										
課題でない	2 (1.1)	1 (0.8)	1 (2.3)	0.28	0 (0.0)	2 (2.2)	0.008	1 (1.0)	1 (1.1)	0.82
あまり課題でない	29 (15.7)	19 (14.8)	8 (18.6)		18 (20.5)	11 (12.0)		16 (16.5)	13 (14.8)	
課題である	87 (47.0)	63 (49.2)	15 (34.9)		31 (35.2)	52 (56.5)		48 (49.5)	39 (44.3)	
大いに課題である	67 (36.2)	45 (35.2)	19 (44.2)		39 (44.3)	27 (29.3)		32 (33.0)	35 (39.8)	
個に応じた食に関する指導を行うこと										
課題でない	2 (1.1)	1 (0.8)	1 (2.3)	0.82	0 (0.0)	2 (2.2)	0.45	1 (1.0)	1 (1.1)	0.48
あまり課題でない	26 (14.1)	18 (14.1)	6 (14.0)		14 (15.9)	12 (13.0)		10 (10.3)	16 (18.2)	
課題である	113 (61.1)	77 (60.2)	25 (58.1)		56 (63.6)	53 (57.6)		62 (63.9)	51 (58.0)	
大いに課題である	43 (23.2)	32 (25.0)	10 (23.3)		18 (20.5)	24 (26.1)		24 (24.7)	19 (21.6)	
地域と連携して食育の取組を行うこと										
課題でない	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (2.3)	0.26	0 (0.0)	1 (1.1)	0.68	1 (1.0)	0 (0.0)	0.45
あまり課題でない	28 (15.1)	20 (15.6)	7 (16.3)		14 (15.9)	14 (15.2)		12 (12.4)	16 (18.2)	
課題である	112 (60.5)	75 (58.6)	28 (65.1)		56 (63.6)	53 (57.6)		58 (59.8)	54 (61.4)	
大いに課題である	44 (23.8)	33 (25.8)	7 (16.3)		18 (20.5)	24 (26.1)		26 (26.8)	18 (20.5)	
家庭と連携して食育の取組を行うこと										
課題でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.54	0 (0.0)	0 (0.0)	0.59	0 (0.0)	0 (0.0)	0.39
あまり課題でない	14 (7.6)	10 (7.8)	3 (7.0)		6 (6.8)	8 (8.7)		5 (5.2)	9 (10.2)	
課題である	96 (51.9)	62 (48.4)	25 (58.1)		43 (48.9)	50 (54.3)		53 (54.6)	43 (48.9)	
大いに課題である	75 (40.5)	56 (43.8)	15 (34.9)		39 (44.3)	34 (37.0)		39 (40.2)	36 (40.9)	
指導後の児童生徒の変容を把握すること										
課題でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.87	0 (0.0)	0 (0.0)	0.34	0 (0.0)	0 (0.0)	0.43
あまり課題でない	16 (8.6)	10 (7.8)	4 (9.3)		10 (11.4)	6 (6.5)		6 (6.2)	10 (11.4)	
課題である	113 (61.1)	77 (60.2)	24 (55.8)		49 (55.7)	60 (65.2)		62 (63.9)	51 (58.0)	
大いに課題である	56 (30.3)	41 (32.0)	15 (34.9)		29 (33.0)	26 (28.3)		29 (29.9)	27 (30.7)	
教材研究(打合せを含む)の時間を確保すること										
課題でない	6 (3.2)	3 (2.3)	3 (7.0)	0.14	3 (3.4)	3 (3.3)	0.36	2 (2.1)	4 (4.5)	0.59
あまり課題でない	29 (15.7)	20 (15.6)	7 (16.3)		10 (11.4)	19 (20.7)		16 (16.5)	13 (14.8)	
課題である	95 (51.4)	69 (53.9)	16 (37.2)		46 (52.3)	46 (50.0)		53 (54.6)	42 (47.7)	
大いに課題である	55 (29.7)	36 (28.1)	17 (39.5)		29 (33.0)	24 (26.1)		26 (26.8)	29 (33.0)	
個別相談指導に関すること										
課題でない	2 (1.1)	1 (0.8)	1 (2.3)	0.37	0 (0.0)	2 (2.2)	0.62	1 (1.0)	1 (1.1)	0.56
あまり課題でない	42 (22.7)	27 (21.1)	13 (30.2)		20 (22.7)	22 (23.9)		21 (21.6)	21 (23.9)	
課題である	108 (58.4)	75 (58.6)	23 (53.5)		54 (61.4)	51 (55.4)		54 (55.7)	54 (61.4)	
大いに課題である	33 (17.8)	25 (19.5)	6 (14.0)		14 (15.9)	17 (18.5)		21 (21.6)	12 (13.6)	
食育推進の評価に関すること										
課題でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.52	0 (0.0)	0 (0.0)	0.63	0 (0.0)	0 (0.0)	0.29
あまり課題でない	10 (5.4)	6 (4.7)	3 (7.0)		4 (4.5)	6 (6.5)		6 (6.2)	4 (4.5)	
課題である	118 (63.8)	78 (60.9)	29 (67.4)		54 (61.4)	60 (65.2)		66 (68.0)	52 (59.1)	
大いに課題である	57 (30.8)	44 (34.4)	11 (25.6)		30 (34.1)	26 (28.3)		25 (25.8)	32 (36.4)	
教職員が食育の必要性を理解すること										
課題でない	1 (0.5)	1 (0.8)	0 (0.0)	0.97	1 (1.1)	0 (0.0)	0.18	0 (0.0)	1 (1.1)	0.007
あまり課題でない	12 (6.5)	8 (6.3)	2 (4.7)		3 (3.4)	8 (8.7)		2 (2.1)	10 (11.4)	
課題である	77 (41.6)	53 (41.4)	17 (39.5)		34 (38.6)	41 (44.6)		37 (38.1)	40 (45.5)	
大いに課題である	95 (51.4)	66 (51.6)	24 (55.8)		50 (56.8)	43 (46.7)		58 (59.8)	37 (42.0)	

人(%)。各項目の結果では、項目ごとに欠損を除外した。
[†]:カイ二乗検定(Fisherの正確確率検定)

び課題を比較した結果を表2～4に示した。所属校種については小学校と中学校に、調理形態は単独調理場と共同調理場に属する者を分析対象者とした。その結果、重要性の意識は、勤務環境による差は認められなかった。

実践の状況は、「家庭と連携した取組を推進するための企画・提案をする」の項目において、所属の学校種間及び調理形態間で有意差が認められ ($p=0.018$, $p=0.020$)、小学校所属で「あまり実践していない」割合が高く、共同調理場で「実践していない」割合が高かった。また、「指導後の児童生徒の食に関する意識や行動の変容状況を把握する」の項目及び「児童生徒の食習慣の状況を把握する」の項目において、所属の学校種間で有意差が認められ ($p=0.003$, $p=0.008$)、いずれも中学校所属で「おおむね実践している」割合が高かった。その他では、有意差はみられなかった。

課題については、調理形態別において「栄養教諭の食に関する指導の時間を確保すること」の項目で、調理形態間に有意差がみられ ($p=0.008$)、単独調理場で「大いに課題がある」割合が高かった。

3 経験年数の違いによる比較

経験年数別に、食育推進における栄養教諭の職務に対する実践の状況及び課題を比較した結果を表3と表4に示した。経験年数は、10年以下と11年以上で比較した。

重要性の意識は、経験年数による差は認められなかった。実践の状況は、「給食を関連付けた食に関する指導の計画を作成する」と「学級活動、教科等において、食に関する指導を行う」で経験年数間に有意差が認められた ($p=0.002$, $p=0.003$)。経験年数10年以下でそれぞれ「あまり実践していない」、「実践していない」割合が高かった。

課題は「教職員が食育の必要性を理解すること」で、経験年数間に有意差が認められ ($p=0.007$)、経験年数が10年以下の者の59.8%が「大いに課題がある」と回答した。

IV 考察

本研究では、学校での食育を推進し、より充実させるために、その中核を担う栄養教諭の食育推進における職務に対して、重要性の意識、実践の状況、課題についての調査を行った。

まず、重要性の意識と実践の状況について考察する。職務に対する重要性について、いずれの項目も90%以上が「とても重要である」「重要である」と回答し、重要性に対する意識は高い傾向にあった。実践の状況は、献立作成、全体計画策定への参画、給食と関連づけた計画作成や給食時間の指導で、「十分に実践している」「おおむね実践している」と回答した割合が80%以上で高かった。一方で、家庭や地域との連携に関する項目、個別相談指導に関する項目及び食育の評価や計画の改善に関する項目では「十分に実践している」「おおむね実践している」が50%以下にとどまった。また、重要性の意識と重ねて実践の状況をみると、「とても重要であ

る」と回答した重要性の意識が高い項目ほど実践の状況が高い（「十分に実践している」「おおむね実践している」）傾向にあることがわかった。

次に、課題の背景を探るために、職場環境や経験年数で、職務に関する実践の状況と課題の関連を検討した。所属の学校種および調理形態による差はほとんどみられなかった。実践状況は、「家庭と連携した取組を推進するための企画・提案をする」の項目において、小学校所属で「あまり実践していない」割合が高くなっていった。また、「指導後の児童生徒の食に関する意識や行動の変容状況を把握する」の項目及び「児童生徒の食習慣の状況を把握する」の項目において、中学校所属で「おおむね実践している」割合が高かった。児童生徒の意識や変容状況及び食習慣状況の把握に対して、中学校所属の栄養教諭のほうがおおむね実践している割合が高い要因としては、中学生のほうが調査しやすいためではないかと推察するが定かではない。

経験年数でみると、実践の状況では「給食を関連付けた食に関する指導の計画を作成する」と「学級活動、教科等において、食に関する指導を行う」で差がみられ、11年以上で「十分に実践している」割合が高く、10年以下で「実践していない」割合が高かった。また、「教職員が食育の必要性を理解すること」について10年以下で「大いに課題である」した割合が高かった。鈴木らの調査⁵⁾で、栄養教諭の食育実践のしやすさの要因に、教員の理解などに左右される実態があるとしている。10年未満で「実施していない」割合が高いことは、他の職務で余裕がないことに加えて教職員との関係性もあるのではないかと推察する。

最後に、栄養教諭の職務の課題が食育推進のPDCAサイクルのどこにあるかを考えてみる。児童生徒に直接かかわる職務を中心に、食育推進のPDCAの各段階の実践の状況をみると、計画 (P)、実践 (D)、評価 (C) の各職務は、60%以上が実施している状況にあるが、改善 (A) 段階の各職務は実施の状況が40%程度にとどまっている。また、全体計画策定への参画については、重要であると認識し、実践をしているが、課題であると考えている人の割合が多かった。さらに、全体計画策定にあたって、評価指標の設定に関わっている人が35%と少なかった。計画ではアセスメント (実態把握) を行い、アセスメントに基づいて目標設定することとされている^{7) 8)}。これらのプロセスが適切に行われなければ評価につながらないため、評価指標は計画 (P) 段階の目標設定と合わせて考えなければならない。しかし、全体計画への評価指標の設定は新たに加えられた項目であるため、実践している割合が低いことに加えて、目標設定から評価までの一連の流れが十分に理解されていないことも考えられる。これらのことから、食育推進のPDCAにおいて改善 (A) 段階に課題があるとともに、計画 (P) 段階での目標や評価指標の設定にも課題があることが示唆された。これは、全体計画作成や食育推進の評価に課題を多く感じていることとも一致する。

したがって、計画段階の課題を改善することで、PDCA サイクルに基づく、よりよい食育を推進することが可能になると考えられる。

調理場と学校の二つの職場をもつ栄養教諭の職務上の課題として、調理場の業務量に左右されることが自由記述から多くうかがえた。食育まで手が回らないという記述もあった。しかし、栄養教諭が学校の食育推進のために配置されていることを考えると、その専門性は、学校の食育を PDCA サイクルにのせて実践できるようにしていくことではないかと考える。

本研究の限界として、自己申告であるため、特に実践の状況については実践度の捉え方に個人差があると考えられる。

また、愛媛県と兵庫県の2県の調査であること、所属校は実践校であるとは限らないこと、自由意思による回答であり、年齢構成等は各県全体の状況を反映しているかどうかはわからないことも限界である。しかし、2県の調査であるものの、食育推進の PDCA サイクルに沿って栄養教諭の職務の状況や課題について把握し、計画段階の課題を改善することで、PDCA サイクルに基づく、よりよい食育の推進につながるという示唆が得られた点に意義があると考えられる。

謝辞

調査にご協力いただきました栄養教諭・学校栄養職員の先生方に感謝申し上げます。

文献

- 1) 文部科学省：中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」2015年11月 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/02/05/1365657_00.pdf (2021年7月14日アクセス)
- 2) 文部科学省：「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育－チーム学校で取り組む食育推進のPDCA－」2017年3月 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/__icsFiles/afieldfile/2017/08/09/1385699_001.pdf (2021年7月14日アクセス)
- 3) 文部科学省：「食に関する指導の手引－第二次改訂版－」2019年3月 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm (2021年7月14日アクセス)
- 4) 小林陽子・岸田佳那子：栄養教諭の職務に関する実態調査－家庭科教員と栄養教諭の連携に関する一考察(その1)－, 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編, 第45巻, pp.153-163, 2010
- 5) 鈴木洋子：小学校における家庭科担当教育と栄養職員(栄養教諭)の連携による食育の実態と課題, 日本教科教育学会誌, 第30巻第2号, pp.9-15, 2007
- 6) 岸田恵津・原田恵美・増澤康男：兵庫県における栄養教諭の職務の現状と課題－任用1年後の栄養教

諭を対象とした調査より－, 兵庫教育大学研究紀要, 第34巻, pp.123-130, 2009

7) 文部科学省：食に関する指導の手引－第二次改訂版－, pp.24-25, 健学社, 2019

8) 一般社団法人 日本健康教育学会 栄養教育研究会編：「学校における食育の評価 実践ワークブック」, 健学社, 2017